

平成20年度
全日本学生ジムカーナ選手権大会
結果報告書



早稲田大学自動車部

グランプリレポート

今回行われました全日本学生ジムカーナ選手権大会の当日の様様をまとめましたので、結果報告と共に掲載させていただきます。

今回の会場となりましたのは三重県にある鈴鹿サーキット。普段はカートコースとして使われている南ショートコースで大会は行われました。今まで練習会も含め、関東戦まで部員たちはパイロンジムカーナの経験は豊富だったものの、サーキットコースを使ったコースジムカーナは初めての体験でした。そのため関東戦以降の練習会では鈴鹿サーキットはもちろんのこと、コースジムカーナになれるという意味合いでツインリンクもてぎのショートコースなどでも行いました。コースジムカーナとパイロンジムカーナの違いは何と云っても、ラインのシビアさにあります。そのため選手一同当初はコースジムカーナに四苦八苦し、他大学のタイムなども比べてみても、厳しい戦いなることは十分予想されていました。



念入りに車輛を仕上げます

そして迎えた大会当日。今回の選手は、加藤、中島、関根の3人です。4年になる加藤、中島は昨年度から選手として出場しました。4年生ということもあり、今回のこの全日本ジムカーナをもってスピード競技の集大成ということとなりました。そのため事前からの準備もかなり入念に行い今大会に臨みました。3年の関根は関東戦から選手に抜擢され、好成績を残しチームに大きく貢献しました。そして車両整備等も当日まで焦ることなくセッティングを出すことができたので、マシンもかなりの戦闘力をもったものに仕上がりました。これもメカニックの迅速な対応と部員全員の勝ちたいという気持ち、今回のような“いい流れ”を創ったと思います。

今回の出場校は全国から集まった36校の出場で、大会は予選、決勝の計2日間で行われ、予選で午前、午後各選手が1本ずつ走り、良い方のタイムの合計を争い、上位15校が次の日に行われる決勝で各選手2本走ることができ、それ以外の大学は各選手1本の合計タイムで争うこととなります。他大学もこの大会に向けて準備を進めてきただけあってマシン、ピットともに仕上がりは順調のようで、緊張感は今までの大会とはひと味違うものになりました。

しかし予選はあいにくの雨。しかし全関東ジムカーナでは雨の中で勝った早稲田。逆境とはとらえず強気の気持ちを忘れず予選に臨みました。その結果、見事予選1位通過で決勝に進出することが出来ました。

そして行われた2日目、決勝。天候は予選の大雨とは打って変わって快晴でした。そのためマシンのセッティングを変える必要があり、前日の車両保管のため当日での整備となりました。



緊張の中、スタートを待ちます

そしていよいよ走行時間となり4年加藤が走り出しました。そしてまず始めのタイムは1分24秒149でなかなかの好タイムでした。そして続く3年関根の走りに注目します。そしてタイムは1分22秒815でした。第3走者の中島は1分21秒842の好タイムでしたが、パイロンタッチをしてしまいました。



快調に第2コーナーを抜けます

午前中、各選手1本のタイムが出たところでの中間結果は総合2位、1位である近畿大学との差は、0,39秒差という僅差となり午後からの3人の走りに期待です。しかしここで問題が発生してしまいました。午前中からの日照りで路面温度はどんどん上昇していき、午前中に履いていたソフトコンパウンドのタイヤでの走行が難しくなってきました。そこでハードタイヤに履き替える訳ですが、前日に行うはずであったタイヤの皮むきが出来ておらず、第1走者である加藤に多少の不安を残し

つつ午後のスタートを切ることとなりました。

そしてスタートした午後加藤の2本目。ここで心配していたことが的中してしまったのか、コース上でミスをしてしまい、他の大学が好調にタイムを更新していく中で、タイムを縮めることが出来ませんでした。第2走者関根。ここでも、午前のタイムを更新することは出来ず、この段階で早稲田は総合3位という暫定結果になり、最後の走者である中島に期待が掛かります。午前のタイムはパイロンタッチがあったため、そうタイムも奮いませんでしたが、これまで幾度となくピンチを乗り越えてきたので、周りの皆は優勝を信じ、その走りを見守ります。

そして出たタイムは、1分21秒544で文句なしの逆転優勝することが出来ました。



スピード競技は全て制覇！！

この結果が出せたのも選手だけではなく、メカニック、記録など周りで支える人達の力、一つのチームとしての総合力がこの勝利に繋がったと思います。



優勝を記念して！！